

③ 東京駅丸の内広場及び行幸通り^{ぎょうこう}整備事業

受賞機関 東京都 建設局 第一建設事務所

キーワード 交通結節機能、馬車道、景観形成

全建賞審査委員会の評価ポイント

東京駅丸の内駅舎の復元とあわせた駅前広場の整備及び皇居へと続く行幸通りの整備事業。駅前広場では、鉄道会社の広場と一体的に再整備することで、交通結節機能を強化するとともに歩行者空間を創出した点や、行幸通りにおいては、周辺と一体となった空間デザインに加え、御影石による馬車道や並木の復元により、日本を代表する高質な景観を創出した点が評価された。

1. はじめに

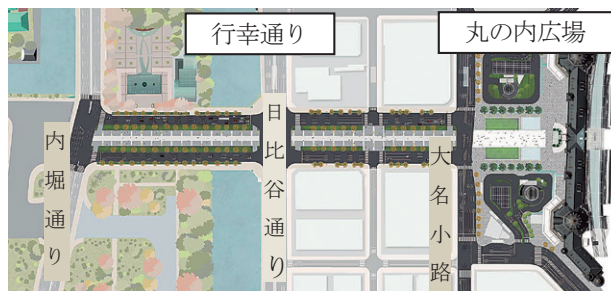
東京駅丸の内広場は、東京駅周辺の再開発事業と整合を図りながら、東京駅丸の内駅舎の復元と併せ、交通の円滑化や交通結節機能の強化、首都東京の「顔」となる風格ある都市景観を図ることを目的に東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR東日本」）と連携して整備を行った。

また、駅前広場から皇居へと続く行幸通りでは、馬車道における自然石舗装や四列並木の復元など、修景に配慮し、広場と一体的な整備を行った。

2. 事業の概要

東京駅丸の内広場は、補助第97号線及び補助98号線と、中央口前のJR東日本の中央広場と一体的に整備した。従前の駅前広場は、路線バスやタクシーが輻輳しており、歩行者空間も十分な水準とは言い難い状況であった。これら課題を解決するため、交通量調査を基に交通管理者、バス事業者等と綿密な調整により、広場中央部に空間を配置し、南北2箇所にバス、タクシーの乗降施設を再配置した。平成27年3月に着手し、平成29年12月に完成した。

行幸通りは、東京駅と皇居を結ぶ、延長390m、幅員73mの道路で、中央部は馬車道と呼ばれ、皇室の公式行事や外国大使の信任状捧呈式などで使われる由緒ある道路である。大名小路から日比谷通りまでの区間を平成



平面図

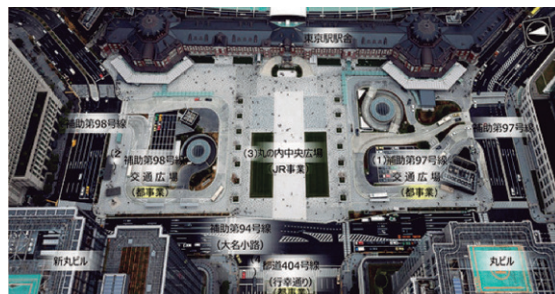
20年度から21年度、日比谷通りから内堀通りまでの区間を平成27年度から29年度に整備した。

3. 事業の成果

東京駅丸の内広場の再整備により、歩道空間が広がり、とともに、鉄道と路線バスやタクシー等の交通結節機能が向上し、交通の安全性や快適性の向上が図られた。

行幸通りでは、広場から皇居に繋がる「景観軸」が構成され、一体感のある空間が創出された。信任状捧呈式に加え、東京マラソンや東京ミチテラスなどのイベントが開催され、多くの都民、観光客が訪れ、地域の活性化に寄与している。

整備にあたり、学識経験者、地元の自治体等で構成するトータルデザインフォローアップ会議を設立し、景観、造園などの専門家から助言と協力を得て、自然石舗装、植栽などを配置し、風格ある都市景観に加え、歴史と文化を垣間見することができる質の高い空間を創出した。



東京駅丸の内広場



行幸通り

4. おわりに

来年、東京オリンピック・パラリンピックが開催される。首都東京の「顔」であるこの場所に多くの人が訪れ、魅力を発信できたら幸いである。

賛助会員 大林道路㈱、鹿島建設㈱